

プラハ日本人学校の進路指導

平成 28(2016)年 2月 19日(金)

海外滞在中の様々な経験は人間を成長させ、その経験は将来の自分の進路を考える上での貴重な財産となります。しかし、ただ漫然と過ごしてしまうとその貴重な経験を自分自身への蓄えとする機会を逃してしまいかねません。

中学生になると、卒業後の進路のことが大変気になります。進路を考える過程で、将来の自分の生き方を考え、どのようなかたちで社会に出るのか考えることが大切です。その上で、それぞれの個性や希望にあった進路を考えることが失敗しない進路選択につながります。また、志望校を決めるにあたっては、どういう条件を優先するかご家庭で話し合いの上、その条件に合いそうな学校を複数校選んでおく必要があります。

例えば、通学に便利であるとか、特色ある部活動があるとか、国際交流活動に力を注いでいるなど、それぞれ違う特徴があります。入試の難易度や大学進学率の高さも重要な要素ですが、データだけではわからない、学校の雰囲気など、入学したあとの学校生活を豊かで楽しいものにする条件には様々なものがあります。

I 社会に出るために

1 働く目的

① 社会との結びつき

社会にはさまざまな職業がありますが、私たちは他の職場で働く人たちと互いに結びついて、社会生活の中でそれぞれの役目を果たしています。

② 暮らしを立てる

働くことによって得たお金で暮らしをしていかななくてはなりません。働くことは生活の安定につながります。

③ 個性を伸ばし、より豊かな人間になる

仕事を通じて職場のいろいろな人と交わりながら、自分を高めます。

また、仕事を離れて、余暇をうまく利用することで、豊かな人間性を育てます。

2 将来の職業について考える場合

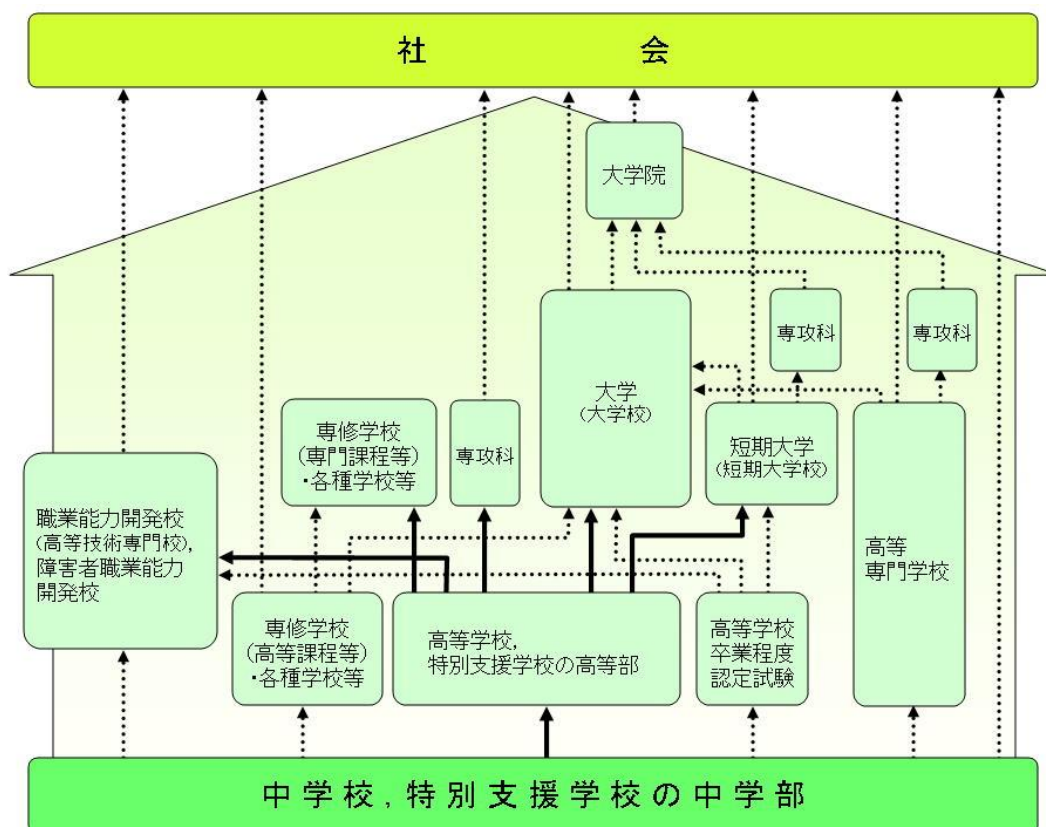
① 自分は将来どんな分野（産業）で仕事をしたいか。

② その分野（産業）のどんな職業につきたいか。

- ③ その分野（産業）や職業を望む理由は何か。
- ④ その職業の求人状況や雇用条件と労働条件、ならびにその職業の将来性はどうか。
- ⑤ 専修学校や職業訓練校で仕事を覚えるほうがよいか。
- ⑥ 高等学校や高等専門学校または、大学に進学した方がいいのか。

以上のことを考えた上で、中学校卒業後の進路を考えます。

3 中学校卒業後、社会に出るまでの進路



II 卒業後の進路を考えるにあたって

1 卒業後すぐ社会に出るか進学するか

①すぐ社会に出る場合

自分の特性を考えた就職先の選択をします。

②進学する場合

将来の夢や就きたい職業は何か。漠然とはしていても自分に何がふさわしいのかを考えます。

2 帰国をするか、しないかの選択

①帰国をしない場合の選択肢

- (1) 海外に進出している日本の高等学校へ進む（イギリス、スイス、シンガポール、アメリカなど）※本校において学校説明会を実施することもあります。
- (2) チェコの現地校に進む
- (3) インターナショナルスクールに進む
- (4) その他の専門の学校に進む（音楽、美術などを学ぶ学校など）
- (5) 日本の広域通信制の高等学校を選択する※

※（5）の選択肢は、他の選択肢と組み合わせて学習することも可能です。

以上のような進学先を検討されている場合は、早めに担任もしくは進路担当までご相談下さい。

②帰国をする場合

- (1) 海外帰国子女受け入れ校を選ぶ
入試だけではなく、受け入れたあとも、特別な配慮のある学校
- (2) 入試に海外帰国子女枠のある学校を選ぶ
入試の時には、特別な配慮のある学校
- (3) 一般校を選ぶ

Ⅲ 志望校の情報収集について

あらかじめ帰国の時期を想定して学校の情報収集をしておくことはなかなか難しいものです。また、帰国子女受入れについては各自治体によって差があります。帰国先が決まらずに複数の候補地の中から大まかな情報を収集せざるを得ないケースもあります。ここでは各学校の校風や雰囲気、入試の難易度などを調べ、志望校を絞り込んでいくまでの過程を紹介します。

1 志望校の情報収集

- ① 書籍から調べる。
(帰国子女のための学校便覧・帰国生への学校案内・学校別募集要項)
- ② ホームページなどを調べる。
(ほぼすべての学校や教育委員会がウェブ上で情報を掲載しています。過去の募集要項でもダウンロードをして参考にすることも必要です。)

- ③ 各学校に問い合わせる。
(各学校の入試広報の担当の窓口があれば問い合わせをする。)
- ④ 見学会に参加する。
(学校説明会や相談会とよばれる日程を調べ、一時帰国中に参加する。)
- ⑤ 過去の卒業生が在籍している場合は、進路担当者に問い合わせをする。

2 合否の可能性の判定

志望校をいくつかに絞ったあと、面談の機会などを利用し、合格の可能性を考えます。

- ① 到達度テスト（本校で実施しているもの及び各県で実施しているもの）の利用
- ② 帰国予定先にある中学校への相談
日本人学校から問い合わせることができます。ただし、どの程度教えてくれるかは、各中学校によって、違います。
- ③ 海外帰国子女に対して、進学相談を行っている組織への相談
- ④ インターネットを利用して、情報を得る。偏差値や過去の入試状況などを調べることができます。

IV 学校を選ぶにあたって

1 小中学校の受け入れ体制

①国立大学附属学校

帰国児童生徒に対する教育的配慮に基づくその指導及び各学校の実践的研究を目的として受入れを行っています。

②公立学校

帰国後の所定の手続きをとれば、いつでも地域の公立学校の年齢相当学年に編入学をすることができます。自治体によっては「学区制」「学校選択制」を採用しているところがあります。事前に教育委員会に連絡をとって、必要な書類や手続きの確認をし、帰国後すみやかに編入学手続きを行うことが大切です。

③私立学校

受入れには別枠の定員を設置している学校もあります。帰国子女を多く受け入れている学校の中には国際性豊かな生徒の育成も学校教育の目標に掲げ、特色あるカリキュラムを設置しています。

2 高等学校の受け入れ体制

高等学校の入学・編入学に際しては、学力検査を実施する学校や面談、小論文、実技などさまざまな選抜方法があります。また入学後も帰国子女生徒と一般生徒がほぼ同じカリキュラムで学習する学校もあります。選抜方法については、日本人学校の出身者と海外現地校やインターナショナルスクールについてそれぞれ異なる選抜基準を設けている学校もあります。

①国立大学附属学校

帰国子女に対しての特別な受入れ枠をもっている高等学校は東京・名古屋・大阪などにあります。

②公立高等学校

都道府県ごとに選抜実施日程や選抜方法、出願手続きの方法や時期が異なります。帰国子女の特別枠を設置している学校では、受験科目を英語・数学・国語の3科目にしたり、英語による小論文を課したり、面接をしたりするなどさまざまな選抜方法があります。

③私立学校

私立学校の中には古くから帰国子女を受け入れてきた学校があります。その選抜方法や受け入れ枠の定員の情報についてはホームページで掲載されていることが多いです。選抜試験の日程も公立学校よりも前に設定されていることが多く、志望順位が公立よりも高い場合と低い場合では選択する学校の幅が大きく変わってきます。また、受験のために一時帰国する場合、一般的には1月中旬から私立学校の入試手続きが始まり、2月の私立の受験、さらに公立の出願手続きから公立入試が終了するまでの約2ヶ月～3ヶ月が受験のための期間となる場合があります。

V 出願にあたって

1 海外帰国子女対象の入試に出願する場合

出願の条件として、2年間以上の海外在住歴を求める学校が多いです。また、帰国後2年以内など、出願できる期間を定めている学校もあります。入試のみ海外帰国子女に対応している場合は、入試の難易度のみではなく、入学してからの学習の難易度についても考えておくことが大切です。

2 必要になる書類（一般的なものです。）

①外国に一定期間住んだという証明書（保護者の勤務先が発行）

出願先によって、求められる居住期間が異なりますが2年以上というものが多い。

②出願承認書

各都道府県教育委員会が発行するものです。都道府県によって書式がことなりますが、高等学校に出願する前に予め出願承認申請を課す自治体が多いです。

③帰国時どこに居住するかの証明書（公立用）

④4月以降、生徒だけが帰国して通学する予定の場合は 日本国内の身元引受人を証明する書類（公立用）

⑤他県と併願しないことの証明書（公立用）

⑥出願手続きや受験票や合否結果を受け取る際に、プラハ日本人学校長名の委任状（書式については各自治体で指定のものがあります。自治体によっては出願手続きや受験票の交付、合否結果を中学校が窓口となることを前提としている場合があります。そのような自治体の場合は本校で発行する委任状が必要になります。）

公立、私立の違いや、学校によって必要な書類や対応が異なりますので、帰国生対象の入試をお考えのときは、早めにご相談下さい。

3 一般校を受験する場合

①帰国時どこに居住するかの証明書（公立用）

②4月以降、生徒だけが帰国して通学する予定の場合は 日本国内の身元引受人を証明する書類（公立用）

③他県と併願しないことの証明書（公立用）

④出願手続きや受験票や合否結果を受け取る際に、プラハ日本人学校長名の委任状などが、必要になることが多いようです。

詳しくは、各私立高等学校が発行する募集要項や各都道府県が発行する「選抜要項」を確認する必要があります。公立高等学校の要項は、例年、11月末から12月に発行されます。

VI 進路選択に備えて

中学校3年生になるにあたって次のようなことを調べておくと思います。

- 1 帰国後の居住予定地周辺にある学校。(高等学校だけでなく、中学校も調べる。) 地図上では近くても、通学困難だったり、逆に、以外と近かったりする高等学校等があります。中学校からは、受検(験)情報を手に入れられることがあります。(日本人学校を通じて)
- 2 その地域で実施されている模擬試験は何か 地域でよく実施されている模擬試験は合否の可能性判定に大変有効です。
- 3 公立高等学校を希望する場合、学区はどうなっているか。 近くにあっても、学区上受検できない学校などがあります。
- 4 一時帰国するチャンスがあれば、志望する学校を見学してみる。 公立・私立問わず事前に連絡すれば、見せてくれるところが多い。
- 5 志望校の過去入試問題集を入手する。 チェコからでは、なかなかのぞむものが手に入りません。日本人学校では、全国の公立高等学校の問題集は購入していますが、個別の私立高等学校の問題集は、ほとんどありません。(入試が済んで不要になりましたら、日本人学校に寄贈していただけるとありがたいです。)

VII 現地校・インター校からの受験・編入学について

現地校・インター校からの編入学・入学については、それぞれの学校の教育課程について十分知っておくことが必要になります。特に、インター校の場合は、その学校が準拠している教育制度が、どの国のものかを知っておくといと思います。

- 1 何歳から小学校に入学するのか
<日 本>子の満6歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初め(4月1日)から。
簡単に言えば、4月1日も含んでそれまでに6歳の誕生日が来た子ども。

〈チェコ〉 その年の9月1日までに満6歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。

〈イギリス〉 その年の8月31日までに満5歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。

〈アメリカ〉 おおよそ9月に満6歳の児童は小学校1年生に入学する。

2 学校の区切りはどうなっているのか

〈日本〉 小学校6年、中学校3年、高等学校3年です。大学は4年です。

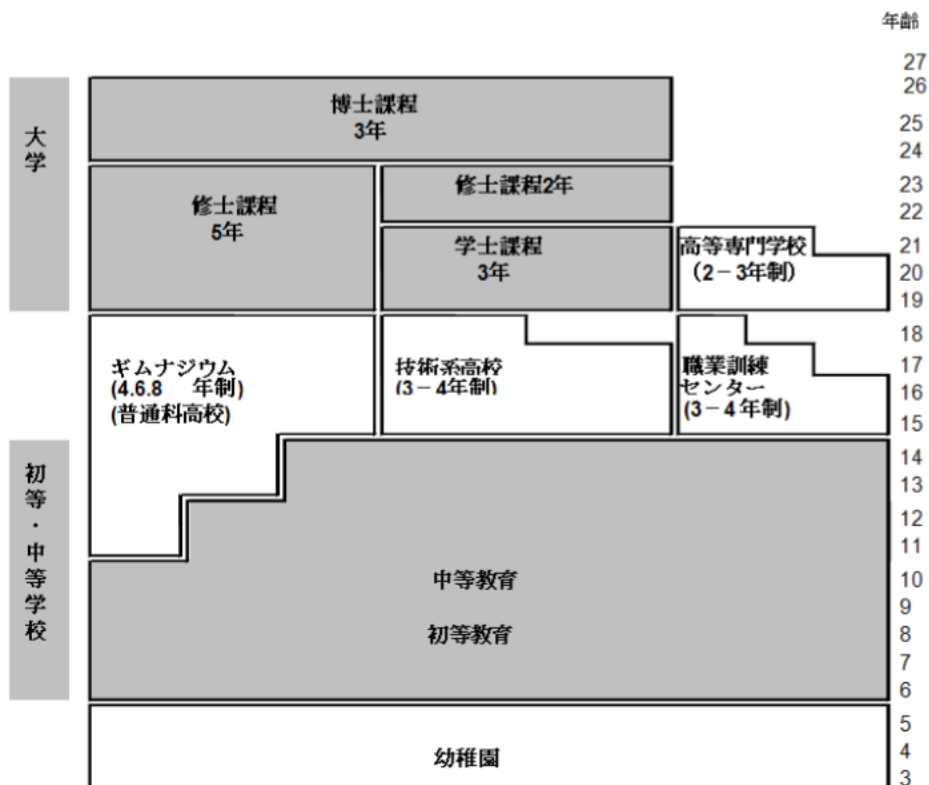
義務教育は、中学校3年生までの9年間です。

〈チェコ〉 基礎学校9年(第1部5年、第2部4年に分かれる。)が義務教育になります。

大学への進学を目指すなら、ギムナジウムに通います。ギムナジウムは、基礎学校の5年から入る8年制、中学校2年から入る6年生、7中学校卒業後に入る4年生からの3種類あります。ギムナジウムの入学には入学試験があります。生徒は自分自身で学校を3つまで選択し、入学申請ができます。

〈イギリス〉 4つのキーステージに分かれており、義務教育は Year11 までのキーステ

義務教育は6歳から15歳までの9年間(初等・中等教育)である。義務教育終了後は、3つのコース、すなわち、職業訓練センター、技術系高等学校、ギムナジウム(普通科高等学校)への進学が選択できる。大学教育は、3~4年の学士課程の短期大学、さらに修士課程、博士課程までと選択の幅は広い。



ージ4まであります。

Key Stage 1 (5歳～7歳、Year 1～2)・Key Stage 2 (8歳～11歳、Year3～6)・Key Stage 3 (12歳～14歳、Year7～9)・Key Stage 4 (15歳～16歳、Year 10～11)。義務教育終了時に GCSE (全国学力試験) で、進路を決めます。大学進学希望者は、6th Form と呼ばれる 2 年間の受験用コースに進み、A レベル試験を受けて、大学を選びます。ここまでの日本の大学の教養課程にあたり、大学は 3 年です。

5 歳から義務教育が始まるので、A レベルと IB の結果で、希望大学に進学するか、あるいはギャップイヤーをとって旅行やボランティアなどで 1 年間遅らせるか、さらに 1 年間、6th Form で勉強し、A レベルを受験し直して希望する大学に入学するかなどの選択が可能です。大学卒業は 22 歳となります。

〈アメリカ〉 4-4-4 制、5-3-4 制、6-3-3 制、6-2-4 制等州や教育委員会によって異なります。義務教育は、12 年間 (18 歳まで) です。

3 プラハ市内には日本人学校以外にどんな学校があるのか

別紙参照

4 出願資格・条件について注意すること

① 中学校卒業資格について

(1) 日本人学校からの受験

日本人学校からの受験の場合は、国内の中学校と同様に「卒業見込み」の資格が与えられます。出願資格及び手続きについては、都道府県外からの受験者と同じ扱いになります。日本人学校の担任または進路担当から該当の都道府県教育委員会に連絡をして、必要事項の確認などをするようになります。

(2) 現地校・インター校からの受験

海外の学校で 9 年生の課程を修了していることが必要な場合が多いです。(12 年生の国では Grade9, 13 年制の国では Year10)。入学時に、言葉がわからないという理由で、学年を下げた場合などは気を付けてください。

〈日本の中学 3 年の間に 9 年生を修了した場合〉

- ・日本中学3年にあたる学年の間に9年生を修了してから帰国し、日本の中学校に編入する場合、資格審査もなく調査書等もその学校が作成します。
- ・日本の中学3年にあたる学年の間に9年生を修了した後、引き続き現地の高校課程に進んでから、日本の4月入学のために受験帰国する場合は、日本の教育制度による中学校は卒業していないので、資格審査を受け、承認を得た後に、出願・受験となります。

<9年の課程を修了していない場合>

- ・現地校・インター校で9年生を修了してから帰国して、9月に編入学試験を受けて9月から編入できる場合があります。（都立高校や、欠員の状況いかんによっては国立・私立高校で募集があります。）9月編入ができない場合は、翌年の入試まで待って、出願・受験します。一部の私立学校では、現地の中学校の6月修了見込みという形で、4月生として受験を認めている学校もあります。
- ・日本の教育制度に戻り、中学校卒業の資格を取ります。帰国して国内の中学校に編入するか、現地の日本人学校に編入します。編入学の時期については、かなり早くから十分に教育委員会や相手校と相談する必要があります。本人の生活や学習面での負担があり、そのために十分な成績や評価が得られない場合もあります。

Ⅷ 日本人学校からの編入学について

編入学の受入れについては、国立・公立・私立を問わず、まずは受入れの枠の有無を事前に確認しておくことが必要です。公立小中学校は問題なく受け入れますが、国立学校や私立学校では一般に欠員募集という形で編入試験を実施することが多いです。編入学の詳細については、公立は都道府県の教育委員会へ、国立・私立は各学校へ問い合わせをしてください。

編入学試験については、入学試験と同じ方法で行う学校もあれば、面接を重視する選抜方法を採用している学校もあります。一般的には、4月や9月など学期の区切りでの募集が多く、欠員が生じた場合に実施されます。帰国生枠の定員をあらかじめ決めて随時受け入れている場合もありますが、中学校、高等学校共に3年生の2学期以降は募集を行う学校が少なくなります。

試験の範囲については、学期の途中で編入試験を受ける場合には、出題範囲も合わせて確認しておくことが必要です。一般に編入学試験については、募集人数も若干名のケース

が多く、選抜方法も多様です。筆記試験を課す学校を受験する場合には、その学校の入学試験問題などを参考にして事前に出題の傾向をつかんでおくことも大切です。

IX 大学受験と高校生が帰国するタイミング

帰国生が日本の大学に進学するための入学資格は「海外の学校教育において12年の教育課程を修了した者」「外国における12年の課程相当の学力認定試験に合格した者」「国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア等の外国の大学入学資格の保有者」「大学において個別の入学資格審査により認められた者」となっています。海外において上記の条件に合った資格が取れない場合は、国内の高等学校に編入して卒業するか高等学校卒業程度認定試験（旧「大学入学検定試験」）に合格する必要があります。ただし大学ごとに行う個別の入学資格審査によって認められることもありますので確認してください。

大学入試における資格条件は、同じ大学でも学部や学科等によって違うのが一般的です。選択した学部や学科の募集要項をよく調べるのが大切です。たとえば在留年数は十分でしょうか。また国際バカロレア等の資格を認めていない大学もあります。

さらには海外校で12年の課程を修了した場合や、逆に県内の高等学校に編入して卒業した場合に、帰国生枠での資格を認めないという大学もありますので注意してください。

また高等学校の入試と同じように学校の修了時期の違いから、たとえば6月に海外で12年間の教育課程を修了してくると日本の大学の4月始業には間に合わなくなるというケースもあります。この場合は、秋入学制度のある大学を選ぶか、翌年まで入学を待たなければなりません。（海外子女教育財団「教育相談室」より）

海外帰国生をサポートしている団体

- ・海外子女教育振興財団
- ・フレンズ帰国生母の会
- ・海外・帰国子女教育専門機関 J O B A
- ・関西帰国生親の会かけはし など

学校名	インターナショナル スクール オブ プラハ	プラハ ブリティッシュ スクール	リバーサイド スクール プラハ	パーク レイン インターナショナル スクール
	The International School of Prague	The Prague British School	Riverside School Prague	Park Lane International School
所在地等	Nebusicka 700, Praha 6	K Lesu 558/2, Praha 4, 142 00 (3-18歳) Vlastina 19, Praha 6 - Liboc, 161 00 (3-14歳)	Roztocka 9, Praha 6, Sedlec Chittusshio 14, Praha 6, Bubence	(Pre and Primary)Norbortov 3, Praha 6 - Stresovice (Secondary)Valdstejnska 151, Praha 1, Mala Strana
設立・形態等	1948年設立／私立／共学／通学制	1992年設立／私立／共学／通学制	1994年設立／私立／共学／通学制	2008年設立／私立／共学／通学制
幼稚園	Pre-Nursery・Kindergarten: 3～5歳	Nursery: 3～5歳 Key stage 1 (Reception): 4歳	Nursery: 3～5歳	Pre Nursery: 2歳～ Nursery: 4-5歳
小学校	Elementary School: 6～10歳 (1年生～5年生)	Key Stage 1,2 (Year 1～6): 5歳～11歳	Year 1～6 (5～11歳)	Key Stage 1,2 (Year 1-6): 5-11歳
中学校	Middle School: 11～13歳 (6年生～8年生)	Key Stage 3 (Year 7～9): 11歳～14歳	Year 7～9 (11～14歳)	Key Stage 3 (Year 7-9): 11-14歳
高等学校	Upper School: 14～18歳 (9年生～12年生)	Key Stage 4 (Year 10～13): 14歳～18歳	Year 10r～12 (14～18歳)	Key Stage 4 (Year 10-11): 14-16歳
学校の特色	米国の教育制度に基づくカリキュラム	英国教育省正式認可	英国の教育課程・米国の教育課程・IB (High School)	ナショナル・イギリス方式
可能な統一テスト	SATI-II、PSAT、ACT、IB IB卒業証書の平均点数は32。	IB、IGCSE、SAT	IOWAテスト・教育課程による一般テスト(米国) ISA(International Schools' Assessment)・IGCSE・IB・PSAT・SAT	IB、SAT、IGSCE
卒業生の進路	91%が進学。	100%全員が進学	大学進学率90%	
言語指導	ESLプログラム	EAL(English as Additional Language)	ESL	EAL
在籍児童生徒数	約800名	約900名	約450名	約170名
授業料	【登録料】 850 EU	【入学金】10000 KC	【登録料】8000KC	【入学金】10,000Kc
	PK3-PK4 11,570	Foundation stage 1-2: 309,00	12,000(デポジット)返金条件あり。	Nursery: 200,000(全日)
	K-Y5 14,550	Year 1-2: 384,200	Reception、Y1、Y2(5～6歳): 294,000	Reception: 220,000
	Y6-Y8 15,810	Year 3-6: 394,800	Y3-Y6(7～10歳): 351,000/同上 : 123,000	Year 1: 240,000
	Y9-Y10 17,300	Year 7-9: 426,300	Y7-Y9(11～13歳): 360,000/同上 : 126,000	Year 2-9: 295,000
Y11-Y12 17,860	Year 10-11: 431,500	Y10-Y13(14～17歳): 366,000/同上 : 128,000	Year 10-11: 320,000	
ローン1,500(PK3-PK4) ,3,000(K-Y12)	Year 12-13: 452,600	ESL: 42,000/同上 : 14,000	Year 12-13: 350,000	
			(出典)外務省; 諸外国・地域の学校情報(26年11月更新)	